

壺井栄賞

パパのごはん

小豆島町立星城小学校一年 木下 琥太郎

ぼくは、パパのごはんが大すき。ぼくが、学どうからいえにかえると、あつあつのごはんがたべられるように、じゅんびをしていています。げんかんのドアをあけると、おいしそうなごはんのかおりがぼくの中にとびこんできます。しよくたぐにいくと、やさしくすわっているサラダ、でかいたいどでねそべっているおにく、にこにこわらっているおさかながぼくをお出むかえしてくれます。カラフルでにぎやかなごはん。ぼくは、パパのごはんがまいたのしみで、大すき。

パパのしごとは、りょうりをおきやくさんにつくることです。とおくからかんこうにきた人によるこんでもらうために、おいしいりょうりを一生けん

めいつくつています。しごとでは、さかなりょうりがおおく、とくに人気なのは、おさしみを木のふねにならべてのせた「ふなもり」です。なぜ人気なのか、パパにきいてみると、そこにはひみつがありました。それは、「ふなもり」をつくる時、たくさんのおいしさをつかってうつくしい見た目にするのと、うみの中をおよいでいるようにもりつけることだそうです。おいしいパパのりょうりには、見た目にもひみつがあつたとしてびつくりしました。

あじと見た目のほかにおいしさのひみつがあるかもしれないとおもったぼくは、パパがごはんをつくる時、おさしみをみることにしました。すると、やさいをきるときのほうちよう、おさし

みをきるときのほうちよう、くだものをきるときのほうちよう、ほうちようだけでたくさんのおいしさがあつた。しよくざいによつて、ほうちようをつかいわけるといひみつを見つけた。つぎは、あつい火のそばで、あせをかきながらあげものをしたり、フライパンをふつたりしています。いやにならないのかなとおもい、パパのおおを見ると、にこにこしながらりょうりをしていました。ぼくは、たのしうにりょうりをするパパを見て、しよくたぐにならんだりりょうりをおもい出しました。やさしくすわっているサラダ、でかいたいどでねそべっているおにく、にこにこわらっているおさかな。やさいやおにく、おさかなたちといっしょに、たのしくりょうりをする時、おいしくなるというひみつも見つけました。

かぞくでごはんをたべているとき、パパもママもおねえちゃんもみんなたのしうにたべています。にこにこし

ながらみんなだとべると、ごはんがおいしいとかんじます。かぞくでたのしくたべることも、おいしさのひみつになるんだと気づきました。ぼくの大すきなパパのごはん。パパのつくるごはんのおいしさには、たくさんのひみつがありました。きょうも、どんなごはんが出てくるかかんがえると、たのしみでたのしみで、にこにこしてしまいます。パパ、いつもおいしいごはんをつくってくれて、ありがとう。